

夢の宅配便

小田原市立城山中学校
学年主任 水野喜代治

「本当の過ち、本当の失敗！」

人は生きている限り、失敗や過ちを繰り返す。神様ではないから、どんなに注意しても失敗するときはあるし、過ちを犯すときは犯す。だから、失敗や過ちを犯したときは、冷静に、迷惑をかけた人には謝罪し、直せるものは、元に戻し、できる限りの誠意をもって行動することが大事だ。

失敗や過ちを周りから非難されることを恐れて、自分はふざけて花瓶を割ったのに、「つまりいて、花瓶にあたってしまった。」などと、少し嘘を言って、自分の立場が、悪くならないようにしていることはないだろうか？正直に「花瓶の周りで、ふざけていて、花瓶にあたって割ってしまいました。すみませんでした。」と謝罪するほうが、自分の中で本当に反省したことになるので、謝罪の気持ちが相手に伝わる。

私の母は、小学校の給食の調理員をしていた。ある時、母が、「喜代治。今日ね、とんでもない児童がいてね、母ちゃん、その子を叱っちゃったよ！」と私に話しかけてきた。私が中学校の教員になりたてのころである。「なにがあったの」と母に問い返すと、『給食のおばさん、牛乳が転がって割れちゃった。』と割れた牛乳瓶をトレイに乗せて持ってきたんだよ。』と母が話し始めた。『普通は、「給食のおばさん、ごめんなさい。牛乳瓶を割ってしまいました。」と時にはベソをかきながら持ってくるんだよ。ところが、この男の子は謝りもなしに、澄ました顔で、「牛乳が転がった」と言って持ってきた。だから、牛乳は勝手に転がらないでしょう。だれかが転がしたんでしょ。あなたが転がしたんでしょ！と強く問いただしたら、「机が斜めになって転がったんだ。」と答えたからあきれたよ。』と母は、私に話した。「机は、勝手に斜めにならないでしょう。だれかが斜めにしちゃったんでしょ！誰が斜めにしたのですか？」と母が尋ねると「僕だよ、机を持ち上げたんだよ。でも牛乳は転がすつもりはなかったから」と相変わらずすまし顔で答えたそう。母は、素直に「不注意で牛乳を割ってしまいました。」と言わない子に直面して、「喜代治も学校で、そういう生徒が、出てくるかもしれないけど、そういう生徒をしっかり注意できる先生にならないとだめだよ」と真剣に言われた。

今は、素直に謝れる生徒が以前より少なくなった気がする。「牛乳が転がっちゃいました。」と真顔で言ってくる生徒のパターンが目につくようになった気がする。生徒が変わったのではなく、大人が「牛乳が転がったんです。」と真顔で言う時代になってしまったのかもしれない。素直で正直な心はいつになっても大切で美しいと思う。

失敗や過ちは誰もが犯す可能性がある。失敗とは、過ちとは、失敗や過ちを誤魔化したとき、それこそが失敗であり、過ちなのだと思う。

キヨさんの詩

失敗する

過ちをおかす

だれもが過ちや失敗をする

問題は失敗した後の行動だ

反省してごまかさなければ

明日に生かされる

それでいい

失敗を誤魔化したら

それこそが本当の失敗だ